

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立郷田小学校	校長氏名	東 克則	生徒指導主事氏名	西宮 利三
-----	------------	------	------	----------	-------

取組事例名 『キラキラカード』

取組のねらい 『笑顔のあふれる学校』

- ・友達の良さを見つけてキラキラカードに書く活動を通じ、お互いを認め合い、学び合う人間関係を築く。
- ・自らもより良くなろうとする態度を育てる。
- ・「東広島いじめゼロ宣言」を具現化する。

取組の具体的内容 『全校児童 キラキラサイクル』 『児童会 やりきる』

- ① **児童会** 計画 ・年 2 回(6 月～7 月・1 月～2 月)「いじめ・体罰アンケート」とリンクさせて実施する。
 ・キラキラカードを書いてもらい、集約する。
 ・目標枚数を設定する。(前期 500 枚・後期 600 枚)
- ↓
- 準備 ・学年カラーのキラキラカード・教室掲示用呼びかけ文・キラキラポストなど
- ② **児童会** 全校放送で、全校児童に呼びかけた後、呼びかけ文を持って各教室を回り、直接呼びかける。
- ③ **全校児童** キラキラ(友達の良いところ・してもらってうれしかったこと・いいなと思う言葉)を見つける。
- ④ **全校児童** キラキラをカードに書いて「キラキラポスト」に入れる。
- ⑤ **児童会** 給食準備時間に毎日枚数を数え、特設の掲示板に掲示する。(放送カード専用掲示板を用意)
 その日に集まったカードの中から、望ましい内容のカードを数枚選んで給食時に放送する。
 放送の最後に一言コメントをつける。
- ↓
- ⑥ **全校児童** 掲示してあるキラキラカードを読む。
- ⑦ ③に返る。
- **児童会** キラキラ月間終了後、全校朝会で集まった枚数を報告、自分達の感想や意見を発表する。

取組の課題・創意工夫 『多様性』 『横に縦に』 『数も質も』

- 『多様性』
- ・「良さ」が偏ることを防ぐために、できるだけ毎日違うキラキラが書いてあるカードを選んで放送し「良さ」の多様性に気付かせる。
- 『横に縦に』
- ・同じ学級・学年だけでなく、違う学年の友達のことを書くように、児童会が放送で呼びかけたり、教職員が直接アドバイスしたりすることで、異学年との交流を深める。
- 『数も質も』
- ・キラキラをたくさん見つけたことも、内容の良さも、毎日の放送を通じて、両方を認める。

取組の成果(効果) 『キラキラの連鎖』 『一目瞭然』 『自主的に』

- 『キラキラの連鎖』
- ・キラキラカードを書いている児童も、書いてもらった児童も笑顔である。
 - ・友達の「キラキラ」をまねようとするのが、思いやりのある行動につながっている。
 - ・「キラキラ」の種類が多様になり、さらに進化した「キラキラ」が見られるようになった。
- 『一目瞭然』
- ・掲示自体が評価になり、キラキラカードを書こうという意欲につながった。
 - ・キラキラカードの色を学年ごとに変えたことが、学級や学年の連帯感をもつことにつながった。
- 『自主的に』
- ・やるべきことがシンプルではっきりしているので、児童会をはじめ、全校児童も自主的に活動できた。

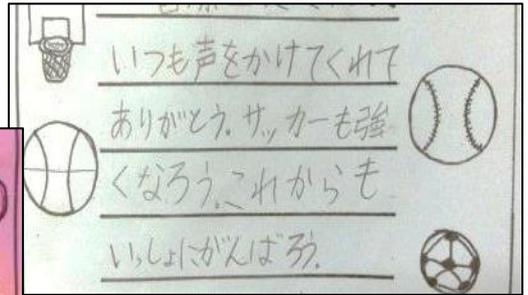
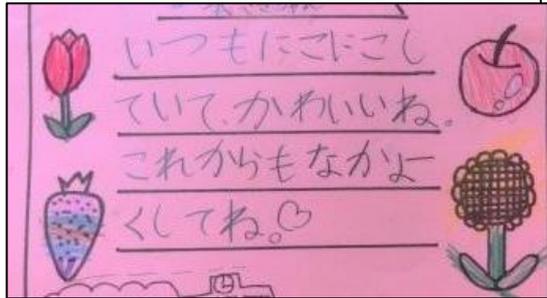
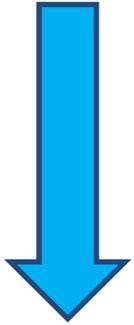
今後の展開 『笑顔を自信に』

- ・「良さを見つけられる自分」「良さを見つけてもらった自分」を自覚させ、自信につなげていく。
- ・友達の「キラキラ」を真似、友達とのつながりを意識した行動ができるように発展させる。

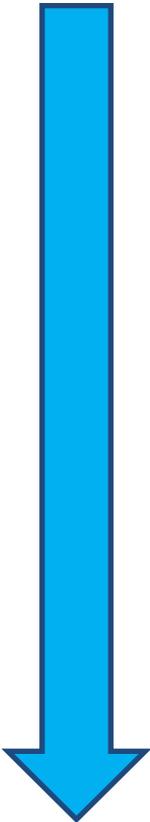
他校へのアドバイス 『シンプル』

- ・自分のやるべきことがはっきり分かっているシンプルな活動にする。
- ・児童が無理なく続けられる活動にする。
- ・誰もが「喜び」や「達成感」を感じることができ、「やってよかった」と思える活動にする。

キラキラカード
【〇〇さんへ・〇〇より】



キラキラカードの掲示・放送



全校への報告

